

注3

大学番号：私271

[平成29年度設置]

計画の区分：大学設置

注1

認可

福岡看護大学 看護学部 看護学科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人福岡学園

平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学生・入試課

課長・氏名 フラザシ進也
檜 崎 進 也

電話番号 092-801-0486

（夜間） 092-801-0411

F A X 092-801-0412

e-mail knyushi@college.fdcnet.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（◇◇学部（平成◇◇年度より学部名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. 既設大学等の状況	10
5. 教員組織の状況	11
6. 留意事項等に対する履行状況等	21
7. その他全般的事項	22

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人福岡学園

(2) 大 学 名

福岡看護大学

(3) 大学の位置

〒814-0193

福岡県福岡市早良区田村二丁目15番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ス イ タ サ チ ヨ) 水 田 祥 代 (平成27年3月)		
学 長	(ク ボ タ ケ イ コ) 窪 田 恵 子 (平成29年4月)		
学 部 長	(イ イ ノ ヒ デ チ カ) 飯 野 英 親 (平成29年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学)	4年	100人	0人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	100人 () [0]	人 () []	1.19倍	
志願者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	424 () [0]	() [-]		
受験者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	410 () [0]	() [-]		
合格者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	247 () [0]	() [-]		
B 入学者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	119 () [0]	() [-]		
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	1.19	-		

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	119 [0] (-)	- [-] (-)	
2 年次			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [0] (-)	- [-] (-)	
3 年次					- [-] (-)	- [-] (-)	- [0] (-)	- [-] (-)	
4 年次							- [0] (-)	- [-] (-)	
計			- [-] (-)	- [-] (-)			- [-] (-)	- [-] (-)	119 [0] (-)

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	人	人	平成26年度	人	人		%
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成27年度 入学者	人	人	平成27年度	人	人		%
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	人	平成28年度	人	人		%
			平成29年度	人	人		
平成29年度 入学者	119 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
合 計	119 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) 授業科目表

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
基礎 分野	思考 力	情報リテラシー	1前	1			1					兼 2	共同 当初予定の兼任教員辞退により、兼任教員の変更 共同 平成29年4月就任者のみで対応するため人数変更 共同 平成29年4月就任者のみで対応するため人数変更
		論理的思考法	1後	1								兼 1	
		基礎ゼミナールⅠ	1前	1			3	1 3	2 3	1			
		基礎ゼミナールⅡ	1後	1			3	1 3	2 3	1			
		統計分析法	2前	1			1						
	表現 力	日本語表現法（伝達表現）	1前	1								兼 1	
		英語コミュニケーションⅠ（基礎）	1前	1								兼 2	
		英語コミュニケーションⅡ（応用）	1後	1								兼 2	
		英語コミュニケーションⅢ（実践）	2前		1							兼 2	
		コミュニケーショントレーニング	1後		1							兼 1	
	人間 と生活	健康と食生活	1前	1				1				兼 5	オムニバス オムニバス
		ライフサイクルと成長発達	1前	1			1					兼 2	
		well-being	1前	1			1						
		家族関係と生活の営み	1後	1			1						
		個人・集団の心理と行動	2後	1								兼 1	
	文化 と社会	健康科学	1前		2							兼 1	※演習
		社会経済と医療福祉	1後	1								兼 1	
		まちづくり概論	1前		1							兼 1	
		福祉とデザイン	1前		1							兼 1	
		民族・宗教と世界の歴史	1後		1							兼 1	
人とし ての 態度	国際と協力	2前		1		1							
	社会制度と法律	2前		2							兼 1		
	自己管理と社会規範	1前	1								兼 1		
	自己形成と職業倫理	1後	1								兼 1		
	他者理解と人間関係の形成	1後	1			1					兼 1		
基礎 学力	チームワークとリーダーシップ	1後	1							3		共同	
	地域活動と社会貢献	2前	1										
	看護教育のための生物学・化学	1前			1						兼 2		
	看護教育のための数学	1前			1	1					兼 1		
	看護教育のための物理学	1前			1						兼 1		
専門 基礎 分野	人体の 構造と 機能	形態機能学（解剖Ⅰ）	1前	1								兼 1	オムニバス
		形態機能学（解剖Ⅱ）	1後	1								兼 1	
		形態機能学（生理Ⅰ）	1前	1								兼 1	
		形態機能学（生理Ⅱ）	1後	1								兼 1	
		形態機能学演習	1後	1								兼 3	
		栄養・代謝機能（生化学）	2前	1								兼 2	
	疾病の 成り立 ちと回 復の促 進	薬理学	1後	2			1					兼 4	オムニバス
		病態疾病論Ⅰ	1後	2								兼 4	
		病態疾病論Ⅱ	1後	2								兼 4	
		病態疾病論Ⅲ	2前	2			1					兼 4	
		病態疾病論Ⅳ	2前	2								兼 9	
		感染免疫学	2前	1								兼 1	
	社会保 険制度 と健康 支援	臨床工学	2前		1		1						オムニバス
		公衆衛生学	2前	1								兼 1	
		保健医療福祉行政論	2後	2								兼 1	
疫学と 現象の 統計	疫学	2後	2								兼 1	共同	
	保健統計	2後	1								兼 3		
専門 分野	基礎 看護 学	看護学概論	1前	1			1	1	1	2			オムニバス・共同（一部）※演習 オムニバス・共同（一部）※講義 オムニバス・共同（一部）※講義 オムニバス・共同（一部）※講義 オムニバス・共同（一部）※講義 共同 オムニバス・共同（一部）※演習 共同 共同 平成29年4月就任者のみで対応するため人数変更 共同
		基礎看護技術論演習	1前	1				1	1	2			
		日常生活援助論演習	1後	3				1	1	2			
		フィジカルアセスメント演習Ⅰ	1後	1				1	1	2			
		フィジカルアセスメント演習Ⅱ	1後	1				1	1	2			
		治療援助論演習	2前	1				1	1	2			
		看護過程論	2前	1				1	1	2			
		well-being care	2後	1			1	1	1	2			
		基礎看護学実習	1後	1			1	1	3 5	7 8	6 10		
		看護過程実習	2後	2			1	4	5	8	10		

科目 区分		授業科目の名称		配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
					必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
専門分野	健康 支援看護学	成人看護学	成人看護学概論	1後	1			0 4						兼 1 同一教員(村田節子)であるが、平成30年4月教授就任であるため平成29年度は兼任教員に変更 オムニバス 共同※演習 共同※演習 共同※演習 オムニバス・共同(一部) 共同 共同	
			急性期・回復期看護論Ⅰ	2前	1			2							
			急性期・回復期看護論Ⅱ	2後	1			2		1	1				
			慢性期・終末期看護論Ⅰ	2前	1			1	1						
			慢性期・終末期看護論Ⅱ	2後	1			2	1						
			健康回復支援論演習	3前	2			3	1	1	2				
			急性期・回復期看護学実習	3後	3			3	1	1	2	1			
			慢性期・終末期看護学実習	3後	3			2	1	1	2	1			
		母性看護学	母性看護学概論	2後	1			1							
			母性看護論	2後	1			1	1					オムニバス	
			母性看護論演習	3前	2			1	1					共同	
			母性看護学実習	3後	2			1	1			1		共同	
		小児看護学	小児看護学概論	2後	1			1							
			小児看護論	3前	1			1		1				オムニバス	
			小児看護論演習	3前	2			1		1	1			オムニバス・共同(一部)※講義	
			小児看護学実習	3後	2			1		1	1			共同	
		精神看護学	精神看護学概論	2前	1					1					
			精神看護論	2後	1					1	1			オムニバス・共同(一部)※演習	
			精神看護論演習	3前	2					1	1			共同	
			精神看護学実習	3後	2					1	1		1	共同	
	地域・在宅看護学	高齢者看護学	高齢者看護学概論	2前	1				1						
			高齢者看護論	2後	1				1		1	2		オムニバス・共同(一部)	
			高齢者看護論演習	2後	2				1		1	2		共同	
			高齢者看護学実習	3後	2				1		1	2	1	共同	
			在宅高齢者看護学実習	3後	2				1		1	2	1	共同	
			在宅看護概論	2前	1				1						
		在宅看護論	在宅看護論	3前	1				2	1		1		オムニバス・共同(一部)※演習	
			在宅看護論演習	3前	2				2	1	1	2		共同	
			訪問看護論実習	3後	2				2	1	1	1	1	共同	
			公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	1後	2				1					
		公衆衛生看護活動論Ⅰ (個人・家族・グループ支援方法)		2後	1				1	1				オムニバス・共同(一部)※講義	
		公衆衛生看護活動論Ⅱ (組織・集団・地域支援方法)		3前		1			1					※講義	
		公衆衛生看護活動論Ⅲ (対象別公衆衛生看護活動論)		3前		1			1	3				オムニバス・共同(一部)※演習	
		公衆衛生看護活動論Ⅳ (学校保健・産業保健・健康危機管理)		4前		1			1	1			兼 1	オムニバス※演習	
		公衆衛生看護活動論Ⅴ (公衆衛生看護管理)		4前		1			1					※演習	
		公衆衛生看護学実習	4通		5			1	1		1		共同		
	統合・実践	家族看護論 看護倫理 口腔健康科学論 在宅高齢者ケア 口腔機能援助論 well-being care統合 看護管理 包括的情報システム論 看護理論 リハビリテーション看護 災害看護 国際看護 看護研究方法論 看護課題研究 統合看護学実習	家族看護論	2前	1				1						
			看護倫理	2前	1				2	1					オムニバス
			口腔健康科学論	2後	1										兼 4 オムニバス※講義
			在宅高齢者ケア	3前	1				1		1	2			オムニバス・共同(一部)※講義
			口腔機能援助論	4前	1					1		1			兼 1 共同
			well-being care統合	4前	2					1	5	8			共同
			看護管理	4前	1				1						兼 1 オムニバス※講義
			包括的情報システム論	4前	1				1						
			看護理論	1後		1			1						
			リハビリテーション看護	2後		1			1						兼 1 共同
			災害看護	4前		1					1	1			
			国際看護	4前		1			1						
			看護研究方法論	3前	1				1						共同 共同
			看護課題研究	4通	2				7	5	1				
			統合看護学実習	4前	2				7	5	5	8			

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設 置 時 の 計 画				変 更 状 況				備 考
必 修	選 択	自 由	計 (A)	必 修	選 択	自 由	計	
科目 87	科目 18	科目 3	科目 108	科目 -	科目 -	科目 -	科目 -	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{108} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	0㎡	64,721.47㎡	1,159.00㎡		65,880.47㎡		
	運動場用地	0㎡	28,441.95㎡	0㎡		28,441.95㎡		
	小 計	0㎡	93,163.42㎡	1,159.00㎡		94,322.42㎡		
	そ の 他	0㎡	0㎡	9,503.58㎡		9,503.58㎡		
	合 計	0㎡	93,163.42㎡	10,662.58㎡		103,826.00㎡		
(2)校舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計		
		6,397.09 6,554.54㎡ (6,397.09 6,554.54㎡)	7,189.82㎡ (7,189.82㎡)	32,661.15㎡ (32,661.15㎡)		46,248.06 46,405.51㎡ (46,248.06 46,405.51㎡)		
(3)教室等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体	
		4 室	8 室	3 室	1 室 (補助職員 一人)	0 室 (補助職員 一人)		
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		看護学部 看護学科			2 5 室			
(5)図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
		看護学部看護学科	4,846 [252] (2,976 [10])	39 [6] (39 [6])	4 [4] (4 [4])	348 (248)	6,142 (5,931)	24 (24)
		計	4,846 [252] (2,976 [10])	39 [6] (39 [6])	4 [4] (4 [4])	348 (248)	6,142 (5,931)	24 (24)
	(6)図書館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数	
		396.37㎡		96		16,640		
(7)体育館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		3,672.00㎡		弓道場		テニスコート他		
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	353千円	354千円	図書購入費	19,216千円	8,290千円	1,978千円
		共 同 研 究 費 等	2,000千円	3,000千円	設備購入費	283,855千円	22,343千円	0千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,800千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	千円	千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、補助金収入等					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
- なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	福岡看護大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
《AC対象学部等》 看護学部看護学科	年 4	人 100	年次 人 -	人 400	学士 (看護学)	倍 1.19	平成29年度	福岡県福岡市早良区田村 二丁目15番1号	
大 学 の 名 称	福岡歯科大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
口腔歯学部口腔歯学科	年 6	人 120	年次 人 —	人 720	学士 (歯学)	倍 0.78	昭和48年度	福岡県福岡市早良区田村 二丁目15番1号	
歯学研究科歯学専攻	4	18	—	72	博士 (歯学)	0.71	昭和60年度	福岡県福岡市早良区田村 二丁目15番1号	
大 学 の 名 称	福岡医療短期大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
歯科衛生学科	年 3	人 80	年次 人 -	人 240	短期大学士 (歯科衛生学)	倍 0.91	平成9年度	福岡県福岡市早良区田村 二丁目15番1号	
保健福祉学科	2	40	-	80	短期大学士 (介護福祉学)	0.42	平成12年度	福岡県福岡市早良区田村 二丁目15番1号	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) 担当教員表

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授 (学長)	窪田 恵子	平成29年4月	well-being 看護学概論 看護理論 基礎看護学実習 well-being care 看護倫理 高齢者看護学概論						
専	教授 (学部長)	飯野 英親	平成29年4月	家族関係と生活の営み 小児看護学概論 家族看護論 看護倫理 小児看護論 小児看護論演習 看護研究方法論 小児看護学実習 看護管理 看護課題研究 統合看護学実習						
専	教授	岩本 利恵	平成29年4月	慢性期・終末期看護論Ⅰ 慢性期・終末期看護論Ⅱ 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習						
専	教授	内田 荘平	平成29年4月	ゲームワークとリーダーシップ 臨床工学 急性期・回復期看護論Ⅰ 急性期・回復期看護論Ⅱ 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習						
専	教授	大久保 つや子	平成29年4月	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 薬理学						
専	教授	岡田 賢司	平成29年4月	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ ライフサイクルと成長発達 病態疾病論Ⅲ						
専	教授	角森 輝美	平成29年4月	公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護活動Ⅰ（個人・家族・グループ支援方法） 在宅看護論 在宅看護論演習 公衆衛生看護活動Ⅱ（組織・集団・地域支援方法） 公衆衛生看護活動Ⅲ（対象別公衆衛生看護活動論） 訪問看護論実習 包括的情報システム論 看護課題研究 統合看護学実習 公衆衛生看護活動Ⅳ（学校保健・産業保健・健康危機管理） 公衆衛生看護活動Ⅴ（公衆衛生看護管理） 公衆衛生看護学実習						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	梶原 恭子	平成29年4月	母性看護学概論 母性看護論 看護過程実習 母性看護論演習 母性看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習						
専	教授	嶋田 香	平成29年4月	情報リテラシー 看護教育のための数学 統計分析法 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ						
専	教授	宮園(篠原)真美	平成30年4月	高齢者看護論 高齢者看護論演習 在宅看護概論 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 看護課題研究 統合看護学実習						
専	教授	村田 節子	平成30年4月	国際と協力 急性期・回復期看護論Ⅰ 急性期・回復期看護論Ⅱ 慢性期・終末期看護論Ⅱ リハビリテーション看護 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 国際看護 看護課題研究 統合看護学実習						
兼任	講師	村田 節子	平成29年9月	成人看護学概論						
専	准教授	青木 久恵	平成29年4月	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 フィジカルアセスメント演習Ⅰ 基礎看護学実習 フィジカルアセスメント演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 看護過程実習 看護課題研究 統合看護学実習						
専	准教授	大城 知子	平成30年4月	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学実習 慢性期・終末期看護論Ⅰ 慢性期・終末期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動論) 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 看護課題研究 統合看護学実習						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	中島 富有子	平成29年4月	精神看護学概論 精神看護論 看護倫理 看護過程実習 精神看護論演習 精神看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習						
専	准教授	永田 華千代	平成30年4月	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学実習 母性看護論 看護過程実習 母性看護論演習 母性看護学実習 看護課題研究 統合看護学実習						
専	准教授	晴佐久 悟	平成29年4月	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 健康と食生活 公衆衛生看護活動Ⅲ（対象 別公衆衛生看護活動論） 口腔機能援助論						
専	准教授	森中 恵子	平成29年4月	公衆衛生看護活動Ⅰ（個人・ 家族・グループ支援方 法） 在宅看護論 在宅看護論演習 公衆衛生看護活動Ⅲ（対象 別公衆衛生看護活動論） 訪問看護論実習 看護課題研究 統合看護学実習 公衆衛生看護活動Ⅳ（学校 保健・産業保健・健康危機管 理） 公衆衛生看護学実習						
専	講師	梶原 江美	平成29年4月	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 フィジカルアセスメント演習Ⅰ 基礎看護学実習 フィジカルアセスメント演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 看護課題研究 統合看護学実習						
専	講師	倉成 由美	平成30年4月	基礎看護学実習 精神看護論 看護過程実習 精神看護論演習 精神看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習						
専	講師	末永 陽子	平成29年4月	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学実習 急性期・回復期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 災害看護 統合看護学実習						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	廣 渡 加奈子	平成29年4月	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学実習 看護過程実習 小児看護論 小児看護論演習 小児看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習	専	講師	中村 加奈子	平成29年4月	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学実習 看護過程実習 小児看護論 小児看護論演習 小児看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習	結婚のため、姓の変更（29）
専	講師	宮坂 啓子	平成30年4月	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学実習 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 well-being care統合 統合看護学実習						
専	助教	青野 広子	平成29年4月	基礎看護学実習 看護過程実習 小児看護論演習 小児看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習						
専	助教	秋永 和之	平成29年4月	基礎看護学実習 急性期・回復期看護論Ⅱ 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 well-being care統合 災害看護 統合看護学実習						
専	助教	寒水 章納	平成29年4月	基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習 公衆衛生看護学実習						
専	助教	町島 希美絵	平成29年4月	基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 well-being care統合 統合看護学実習						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	松尾(奥村)里香	平成30年4月	基礎看護学実習 高齢者看護論 高齢者看護論演習 看護過程実習 在宅看護論 在宅看護論演習 在宅高齢者ケア 高齢者看護学実習 在宅高齢者看護学実習 訪問看護論実習 well-being care統合 統合看護学実習						
専	助教	三好 麻紀	平成29年4月	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 フィジカルアセスメント演習Ⅰ 基礎看護学実習 地域活動と社会貢献 フィジカルアセスメント演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習						
専	助教	門司 真由美	平成29年4月	看護学概論 基礎看護技術論演習 日常生活援助論演習 フィジカルアセスメント演習Ⅰ 基礎看護学実習 フィジカルアセスメント演習Ⅱ 治療援助論演習 看護過程論 well-being care 看護過程実習 well-being care統合 統合看護学実習						
専	助教	吉田 理恵	平成29年4月	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学実習 看護過程実習 健康回復支援論演習 急性期・回復期看護学実習 慢性期・終末期看護学実習 口腔機能援助論 well-being care統合 統合看護学実習						
兼任	講師	荒木 正見	平成29年9月	他者理解と人間関係の形成 個人・集団の心理と行動						
兼任	講師	池邊 哲郎	平成30年4月	病態疾病論Ⅳ						
兼任	講師	石原 礼子	平成29年9月	社会経済と医療福祉						
兼任	講師	井上 敏生	平成29年9月	病態疾病論Ⅱ						
兼任	講師	上野 道雄	平成32年4月	包括的情報システム論						
兼任	講師	大星 博明	平成29年4月	ライフサイクルと成長発達 病態疾病論Ⅰ 病態疾病論Ⅱ						
兼任	講師	尾崎 正雄	平成29年4月	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	岡村 和彦	平成29年9月	病態疾病論Ⅰ						
兼任	講師	岡本 富士雄	平成29年4月	形態機能学（生理Ⅰ） 形態機能学（生理Ⅱ）						
兼任	講師	金光 芳郎	平成30年4月	病態疾病論Ⅳ						
兼任	講師	川野 庸一	平成30年4月	病態疾病論Ⅲ						
兼任	講師	寒水 康雄	平成29年9月	病態疾病論Ⅰ						
兼任	講師	北河 憲雄	平成29年9月	形態機能学演習						
兼任	講師	小島 寛	平成29年4月	健康と食生活						
兼任	講師	児玉 淳	平成29年4月	情報リテラシー						
兼任	講師	酒井 健太郎	平成29年4月	日本語表現法（伝達表現） 論理的思考法						
兼任	講師	坂上 竜資	平成30年4月	病態疾病論Ⅳ						
兼任	講師	佐藤 敦子	平成29年9月	形態機能学（解剖Ⅱ）						
兼任	講師	佐藤 博信	平成30年4月	病態疾病論Ⅳ						
兼任	講師	沢 禎彦	平成29年9月	形態機能学演習						
兼任	講師	篠原 徹雄	平成29年9月	病態疾病論Ⅱ 病態疾病論Ⅲ						
兼任	講師	高瀬 文広	平成29年4月	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ						
兼任	講師	田北 雅裕	平成29年4月	福祉とデザイン まちづくり概論						
兼任	講師	知念 正剛	平成29年4月	情報リテラシー	兼任	講師	井上 勇介	平成29年4月	情報リテラシー	平成29年4月知念正剛兼任講師が 就任辞退のため、担当者変更（29）
				看護教育のた めの物理学	兼任	講師	松家 茂樹	平成29年4月	看護教育のた めの物理学	平成29年4月知念正剛兼任講師が 就任辞退のため、担当者変更（29）
兼任	講師	長 環	平成30年4月	感染免疫学						
兼任	講師	寺岡 佐和	平成32年4月	公衆衛生看護活動論Ⅳ（学校 保健・産業保健・健康危機管 理）						
兼任	講師	徳本 正憲	平成29年9月	病態疾病論Ⅱ						
兼任	講師	内藤 徹	平成29年4月	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ 口腔健康科学論 口腔機能援助論						
兼任	講師	中島 與志行	平成29年4月	ライフサイクルと成長発達 病態疾病論Ⅳ						
兼任	講師	中園 栄里	平成29年4月	健康と食生活						
兼任	講師	永嶋 哲也	平成29年4月	自己管理と社会規範 自己形成と職業倫理						
兼任	講師	橋口 一成	平成30年4月	栄養・代謝機能 （生化学）						
兼任	講師	橋本 修一	平成29年9月	病態疾病論Ⅰ						
兼任	講師	畠山 雄次	平成29年9月	形態機能学演習						
兼任	講師	埴岡 隆	平成30年9月	疫学 保健統計						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	早川 浩	平成29年4月	看護教育のための生物学・化学						
兼任	講師	林 道夫	平成30年4月	栄養・代謝機能(生化学)						
兼任	講師	松垣 伸次	平成30年4月	社会制度と法律						
兼任	講師	廣藤 卓雄	平成32年4月	災害看護						
兼任	講師	藤兼 亮輔	平成29年4月	看護教育のための生物学・化学						
兼任	講師	藤田 恭之	平成30年4月	病態疾病論Ⅲ						
兼任	講師	古村 南夫	平成30年4月	病態疾病論Ⅲ						
兼任	講師	堀部 晴美	平成30年9月	口腔健康科学論						
兼任	講師	町田 弘幸	平成29年4月	健康科学 コミュニケーション・トレーニング						
兼任	講師	松尾 忠行	平成30年4月	公衆衛生学 保健統計						
兼任	講師	壬生 正博	平成29年4月	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 民族・宗教と世界の歴史						
兼任	講師	八尋 純子	平成29年4月	形態機能学(解剖Ⅰ)						
兼任	講師	山口 優実	平成30年9月	口腔健康科学論						
兼任	講師	山野 貴史	平成29年4月	健康と食生活 病態疾病論Ⅳ						
兼任	講師	湯浅 賢治	平成30年4月	病態疾病論Ⅳ						
兼任	講師	吉村 久美子	平成30年9月	口腔健康科学論						
兼任	講師	渡辺 猛	平成30年9月	保健医療福祉行政論 保健統計						

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
11	6	5	8	30	9	4	3	7	23	11	6	5	8	30
(9)	(4)	(3)	(7)	(23)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（B））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	3 名	5 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
	該 当 な し	該 当 な し					該 当 な し				
合 計（A）						後任補充状況の集計（B）					
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
該 当 な し											

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由					
	該当なし	該当なし	必修			該当なし					
			選択								
			必修								
			自由								
			必修								
			必修								
合 計（C）					後任補充状況の集計（D）						
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
該当なし	人		必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
			選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
			自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
			計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A）+（C）					後任補充状況の集計（B）+（D）		
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
該当なし	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (29年8月)	・設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項 設置の趣旨・目的を教員就任予定者が共通理解ができるように、開学準備説明会を3回開催した。開学後も、教員オリエンテーションや助手、事務職員も含めた全体の福岡看護大学スタッフ会議を開催し、学長が説明を行い理解を深めた。 また、教育研究活動水準の向上のため、開学前より「看護学・口腔医学連携研究委員会」を設置し、福岡歯科大学及び福岡医療短期大学の教員と共同で研究を推進している。 また、申請資格を有する全員に科学研究費申請を義務付けている。(29)	
	・教育の目的である「口腔を起点とした全身の健康支援が可能な看護実践能力の育成」が明確になるようシラバスを改めたことだが、実習科目には当該内容を追加したにもかかわらず、前段階の専門基礎分野の科目や専門分野の基礎看護学の講義科目及び演習科目には追記されていない。また、当該内容を追加したシラバスを見ると、例えば「公衆衛生看護学実習」では授業内容の「健康教育」部分では内容を追加されているにもかかわらず、その前段階の「健康相談」部分では追加されていない。このことから、学生が当該目的を理解した上で段階的な学修が可能であるか不明確であるため、シラバスについては再度見直すこと。なお、「専門基礎分野」の科目において、近年、口腔の細菌が慢性疾患の原因となることが明らかになってきたことも学修させることにより、「健康支援看護学」に位置付けられた科目における実践によりつながるものとなると思われるので、授業内容の充実に努めること。	留意事項 「口腔を起点とした全身の健康支援が可能な看護実践能力の育成」のために、教育課程の見直しを行い、教育の順序性と教育内容の適切性について検討し、不足した内容をシラバスに追記している。基礎分野の「健康と食生活」に健康的な食生活に必要な口腔の健康や摂食・嚥下機能との関連性を理解できる教育内容を追記、専門基礎分野の「形態機能学（解剖Ⅰ）」に口腔の構造と機能と栄養の消化・吸収が理解できる教育内容を追記した。さらに、専門分野の「日常生活援助論演習」に演習項目として口腔内を清潔にする援助方法を追記、講義に嚥下のスクリーニング、栄養状態アセスメントを追記した。「公衆衛生看護学実習」については、教育目標に到達するように、見直し中である。また、歯周病が及ぼす全身の健康への影響については、専門基礎科目、専門科目の「健康支援看護学」に教育内容を追加する方向で調整中である。(29)	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
ク 入学者選抜の概要 3. 選抜方法 4) センター試験利用入学試験	開学初年度からの大学入試センター試験利用は、大学入試センターへの利用申請手続き上不可であったため平成30年度入試からの利用を準備している。
資料30 実習施設の承諾書（福岡県下の保健所等）	飯塚市の使用する施設名に記入漏れがあり、再度飯塚市に追記をしていただき修正。（別添資料1）
資料37-2 教育課程と指定規則との対比表	保健師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数の単位数集計に誤りがあり修正。（別添資料2）

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

開学と同時に、福岡看護大学FD委員会規則を制定し、委員5名と事務1名で構成している。（別添資料3）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

第1回FD委員会を平成29年4月28日に開催し、平成29年度の年間計画等を決定した。年6回及び必要時に委員会を開催する予定である。

c 委員会の審議事項等

1. FD年間計画について

2. 学生による授業評価の実施について

3. 管理職等を対象とした「ハラスメント研修」の開催について（平成29年6月1日開催予定）

ハラスメント防止等対策委員会、福岡歯科大学FD委員会及び福岡医療短期大学務・FD委員会と共催

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 新採用教員研修会
- ・ 学生による授業評価アンケート項目の決定

b 実施方法

- ・ 学内研修会
- ・ 学生による全科目の授業評価の実施、結果の分析及びフィードバック

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 新採用教員研修会は、教員23名及び助手6名全員参加した。今後も、FD年間計画に基づき実施予定である。
- ・ 全科目、学生による授業評価アンケートを実施予定である。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 学生による授業評価結果の取りまとめるとともに、分析を行い、授業改善計画を立案する。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 前期と後期の全開講科目について、最終講義日に実施予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ アンケート結果を集計し各教員へ結果をフィードバック行い、授業改善報告書を提出してもらう。
- ・ 最終的には、大学のホームページに掲載する予定である。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、学則第2条に基づき、教育研究水準の向上に資するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うこととしている。開学と同時に、福岡看護大学自己点検・評価委員会規則を制定し、大学長を委員長としてその他役職教員6名及び事務職員2名の委員をもって委員会を組織した。

平成29年5月1日現在、自己点検評価委員会の開催はなし。今後開催する予定。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

検討中

b 公表方法

検討中

③ 認証評価を受ける計画

・2022年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ ☒ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (29 年 6 月 1 日)

承 諾 書

学校法人福岡学園 福岡看護大学看護学部看護学科の実習施設として、平成 32 年 4 月 1 日より飯塚市保健センターを使用することを承諾します。

平成 27 年 8 月 10 日

承諾に際して付した条件

公衆衛生看護学実習を実施する際は、受け入れ人数及び実習内容等について、事前に調整を行うこと。

開設者又は長の職名・氏名

飯塚市

市長 齊藤 守史



学校法人 福岡学園

理事長 水田 祥代 殿

様式第2号(その2)

教育課程と指定規則との対比表

(保健師学校) (福岡看護大学看護学部看護学科)

指定規則教育内容										別表1(保健師課程)										
										公衆衛生看護学				疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学実習			計
										公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論				公衆衛生看護学実習	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論実習	
区分	授業科目	配当年次	単位数			1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件		2	14	2	2	3	5	28					
			必修	選択	自由		必修	選択												
基礎分野	思考力	情報リテラシー	1前	1		30	必修19単位＋選択5単位以上													
		論理的思考法	1後	1		30														
		基礎ゼミナールⅠ	1前	1		30														
		基礎ゼミナールⅡ	1後	1		30														
		統計分析法	2前	1		30						○								
	表現力	日本語表現法(伝達表現)	1前	1		30														
		英語コミュニケーションⅠ(基礎)	1前	1		30														
		英語コミュニケーションⅡ(応用)	1後	1		30														
		英語コミュニケーションⅢ(実践)	2前		1	30														
		コミュニケーショントレーニング	1後		1	30														
	人間と生活	健康と食生活	1前	1		15														
		ライフサイクルと成長発達	1前	1		15														
		well-being	1前	1		15														
		家族関係と生活の営み	1後	1		15														
		個人・集団の心理と行動	2後	1		15														
	文化と社会	健康科学	1前		2	15														
		社会経済と医療福祉	1後	1		15														
		まちづくり概論	1前		1	15														
		福祉とデザイン	1前		1	15														
		民族・宗教と世界の歴史	1後		1	15														
	人としての態度	国際と協力	2前		1	15														
		社会制度と法律	2前		2	15														
		自己管理と社会規範	1前	1		15														
		自己形成と職業倫理	1後	1		15														
		他者理解と人間関係の形成	1後	1		15														
	基礎学力	チームワークとリーダーシップ	1後	1		15														
		地域活動と社会貢献	2前	1		15														
		看護教育のための生物学・化学	1前			1	15													
		看護教育のための数学	1前			1	15													
		看護教育のための物理学	1前			1	15													
小計			19	10	3	555			1			0			1					
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学(解剖Ⅰ)	1前	1		30	必修23単位	【専門基礎分野】と【専門分野】から4単位以上選択する												
		形態機能学(解剖Ⅱ)	1後	1		30														
		形態機能学(生理Ⅰ)	1前	1		30														
		形態機能学Ⅳ(生理Ⅱ)	1後	1		30														
		形態機能学演習	1後	1		15														
		栄養・代謝機能(生化学)	2前	1		30														
	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学	1後	2		15														
		病態疾病論Ⅰ	1後	2		15														
		病態疾病論Ⅱ	1後	2		15														
		病態疾病論Ⅲ	2前	2		15														
		病態疾病論Ⅳ	2前	2		15														
		感染免疫学	2前	1		30														
		臨床工学	2前		1	15														
		公衆衛生学	2前	1		15								○						
	障と健康 制度社会 支援	保健医療福祉行政論	2後	2		15								○						
		統計の健康 疫学現と象	疫学	2後	2				15				○							
			保健統計	2後	1				30					○						
小計			23	1	0	360			6			0			6					

指定規則教育内容 教育課程										別表1（保健師課程）											
										公衆衛生看護学				疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学実習			計	
										公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論				公衆衛生看護学実習 実習	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論実習		公衆衛生看護管理論実習
区 分	授業科目	配当 年次	単位数			1単位 当たりの 時間数	履修方法 及び 卒業要件		2	14			2	2	3	5			28		
			必修	選択	自由		必修	選択													
基礎看護学	看護学概論	1前	1			30	必修 13 単位														
	基礎看護技術論演習	1前	1			30															
	日常生活援助論演習	1後	3			30															
	フィジカルアセスメント演習Ⅰ	1後	1			30															
	フィジカルアセスメント演習Ⅱ	2前	1			30															
	治療援助論演習	2前	1			30															
	看護過程論	2前	1			30															
	well-being care	2後	1			30															
	基礎看護学実習	1後	1			45															
	看護過程実習	2後	2			45															
小計			13	0		330			0						0			0			
健康支援看護学 専門分野	成人看護学	成人看護学概論	1後	1			15	必修 31 単位 【専門基礎分野】と【専門分野】から4単位以上選択する													
		急性期・回復期看護論Ⅰ	2前	1			30														
		急性期・回復期看護論Ⅱ	2後	1			30														
		慢性期・終末期看護論Ⅰ	2前	1			30														
		慢性期・終末期看護論Ⅱ	2後	1			30														
		健康回復支援論演習	3前	2			30														
		急性期・回復期看護学実習	3後	3			45														
		慢性期・終末期看護学実習	3後	3			45														
	母性看護学	母性看護学概論	2後	1			15														
		母性看護論	2後	1			30														
		母性看護論演習	3前	2			30														
		母性看護学実習	3後	2			45														
	小児看護学	小児看護学概論	2後	1			15														
		小児看護論	3前	1			30														
		小児看護論演習	3前	2			30														
		小児看護学実習	3後	2			45														
精神看護学	精神看護学概論	2前	1			15															
	精神看護論	2後	1			30															
	精神看護論演習	3前	2			30															
	精神看護学実習	3後	2			45															
小計			31	0	0	615			6						0			6			
地域・在宅看護学	老年看護学	高齢者看護学概論	2前	1			15	必修 26 単位													
		高齢者看護論	2後	1			30														
		高齢者看護論演習	2後	2			30														
		高齢者看護学実習	3後	2			45														
		在宅高齢者看護学実習	3後	2			45														
	在宅看護論	在宅看護概論	2前	1			15														
		在宅看護論	3前	1			30														
		在宅看護論演習	3前	2			30														
		訪問看護論実習	3後	2			45														
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	1後	2			15														
		公衆衛生看護活動論Ⅰ （個人・家族・グループ支援方法）	2後	1			30														
		公衆衛生看護活動論Ⅱ （組織・集団・地域支援方法）	3前	1			30														
		公衆衛生看護活動論Ⅲ （対象別公衆衛生看護活動論）	3前	1			30														
		公衆衛生看護活動論Ⅳ （学校保健・産業保健・健康危機管理）	4前	1			30														
公衆衛生看護活動論Ⅴ （公衆衛生看護管理）		4前	1			30															
公衆衛生看護学実習		4通	5			45															
小計			26	0	0	495			13						5			18			

教育課程 指定規則教育内容							別表1(保健師課程)														
							公衆衛生看護学				疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学実習				計			
							公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論				公衆衛生看護学実習	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論実習	公衆衛生看護管理論実習				
区 分	授業科目	配当 年次	単位数			1単位 当たりの 時間数	履修方法 及び 卒業要件		2	14				2	2	3	5				28
			必修	選択	自由		必修	選択													
専門分野	統合・実践	家族看護論	2前	1		15	必修 14 単位	【専門基礎分野】と【専門分野】から4単位以上選択する													
		看護倫理	2前	1		15															
		口腔健康科学論	2後	1		30															
		在宅高齢者ケア	3前	1		15															
		口腔機能援助論	4前	1		30															
		well-being care統合	4前	2		30															
		看護管理	4前	1		15															
		包括的情報システム論	4前	1		30															
		看護理論	1後		1	15															
		リハビリテーション看護	2後		1	15															
		災害看護	4前		1	15															
		国際看護	4前		1	15															
		看護研究方法論	3前	1		30															
		看護課題研究	4通	2		30															
		統合看護学実習	4前	2		45															
	小計			14	4	0	345			0					0					0	
卒業要件単位数							126		26					5					31		
保健師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数							135		23					5					28		
指定規則に対する増単位数									3					0					3		

福岡看護大学FD委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、福岡看護大学学則第3条第2項の規定に基づき、FD委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(任務)

第2条 委員会は授業内容及び方法等の改善を図るため次の事項を審議する。

- (1) FD推進のための企画及び実施に関する事項
- (2) FDに関する報告書等の作成に関する事項
- (3) その他、FDの推進に関する事項

(組織)

第3条 委員会は次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学部長
- (2) 学生部長
- (3) 部門長
- (4) 大学長が指名する教員若干名

2 委員の他に必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(任期)

第4条 前条第1項第1号から第3号の委員の任期は、その職にある期間とする。

2 前条第1項第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学部長をもって充てる。

2 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名した者がその職務を代行する。

(委員会の開催)

第6条 委員会は、委員長が必要に応じて招集し、その議長となる。

(会議)

第7条 委員会は、委員の半数以上の出席により成立する。

2 議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数のときは議長が決する。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、教務課において処理する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。